

版わが政道

赤れんが

喜多龍一十勝連合後援会 発行責任者/石田富男 発行日/平成10年1月7日 第4号

1998 新年あいさつ



北海道議会議員 喜多 龍一

気持ちも新たに新春を迎えられ、心からお慶び申し上げます。昨年は十一月の金融機関の破綻に象徴されるように、バブル経済の崩壊によって生じた不良債権等が、抜本的に処理されていないことから、ダウ平均株価は下落したままで、そのために資産が劣化し倒産、という図式が顕在化した年でありました。かつて米国では抜本的な不良債権処理を完遂し、今日の好況を再構築したのであります。が、そうとすれば民間は何を為し、行政と政治はそれぞれ何を為すべきかについて、おのずと答えは出てくるのではないかと、そんな単純なもんじゃありません」と野次が飛んできて、目がさめました。

昨年五月私は、道議会の自民党・道民会議に会派入りし、自民党道連副幹事長を拝命いたしました。委員会は文教と北方領土に所属となり、予算特別委員会理事・決算特別委員会理事及び分科会副委員長などの立場で、ひと通りの仕事をさせていただきました。また政策的には、持続可能な社会の創出のため、ゴミや環境問題への思い切った取り組みは、環境と食糧がキーワードの二十一世紀に向け、大きな産業ともなることや、教

保健所再編計画で堀知事 見直しに含み示す

「保健所再編計画」は、道民生活に大きな影響を及ぼす。再編計画は、道民生活に大きな影響を及ぼす。再編計画は、道民生活に大きな影響を及ぼす。

「98年度予算化を要望」 十勝港の開港で堀知事



道議会 喜多龍一議員



●地産地消事業の検討中

「札幌市議会」 喜多龍一議員 道議会 喜多龍一議員

「札幌市議会」 喜多龍一議員 道議会 喜多龍一議員

ダイジェスト

- 平成九年第一回定例道議会 一般質問 (三月二四日)
 - ・十勝港問題
 - ・農業問題
 - ・保健環境問題
- 平成九年第二回定例道議会 一般質問 (七月一日)
 - ・防災対策問題
 - ・道長期総合計画基本計画案問題
 - ・農業問題
- 平成九年第三回定例道議会 一般質問 (九月十日)
 - ・道政上の課題
 - ・北方領土問題
 - ・国際交流問題
 - ・環境問題
 - ・保健所問題
- 平成九年第四回定例道議会 予算特別委員会 (十月十四日)
 - ・道政上の課題
- 平成九年第四回定例道議会 予算特別委員会 (十二月十日)

平成九年 第一回定例道議会 一般質問



平成九年三月二四日

一、重要港湾十勝港の開港について 全国の重要港湾で唯一、町長が港湾管理者として頑張っているのが、十勝港であります。昭和四十五年重要港湾の指定を受けて以来、五千トン岸壁以上の港湾施設は八施設を数え、昨年九月に十勝、東京間にフェリーが週一・五便就航し、今年四月からは、三日に二便、週四

便就航することとなり、平成十二年にバナマックス型などの外航大型船が入港できる、水深十三メートル岸壁を供用開始する予定となっております。このことは、大型岸壁が少ない本道において、釧路港、苫小牧港の混雑、沖待ち解消の一助ともなり、十勝港が新たな物流の拠点として、また、圏域の物流構造を大きく変化させ、流通

円増し、苫小牧港は、同年で延べ五百九十六日、一隻当たり約一日半強、約十一億九千万円の待船によるコスト増と、膨大な待船料金であるとともに、ファーストポートでないが故に、十勝港に荷揚げされた貨物は、内貨扱いによる経費及びこれに係る消費税の重複も発生するものであります。

開港、即ち、C-I-Qの指定を受けた場合、税関手続きも検査も現地ですべて容易にでき、更に、保税地域が整備されているので、外国貨物の搬入が容易にでき、他の開港との間で保税運送もできるのは、御案内の通りであります。

平成十二年の水深十三メートルルールの供用開始に間に合わせるためには、何となく、平成九年年度に開港の目途をつけることが必要なのであります。さすれば、翌十年度、十一年度の二ヶ年で施設整備等の準備が可能となる訳であります。国は、十勝港の開港について極めて厳しい姿勢と伺っておりますが、どのように状況把握されているのか、お聞かせ頂きたい。

最近の開港事例と十勝港を比較して見ますと、開港年の実績

石狩湾新港に比べ、隻数、貿易額では及ばないものの、入港船舶総トン数は一・七倍となっているものであります。

開港とは、関税法で「貨物の輸出入及び輸入並びに外国船の入港、その他の事情を勘案して政令で定める港をいう」となっております。

- 福島県相馬港 外国船入港隻数六十四隻、入港船舶総トン数三十六万五千トン、貿易額十三億三千五百万円、
- 長崎県松浦港 七隻、四百四十トン、
- 和歌山県新宮港 四十五隻、三十五万七千トン、
- 十勝港 十二億六千六百万円、

「答弁」 一、重要港湾十勝港の開港について (一) 国の姿勢について 十勝港は、これまで着実に整

「再質問」 一、重要港湾十勝港の開港について 答弁にありましたように、開港期成会は、知事の手を促ささせていただきます、昨年末、準備も整わない中、初めて大蔵大臣

に要望を行っていたいただきました。今後、なお、よろしくお願いしたいと思います。

「町長が来るのと、知事が来るのとではね」という声が、耳について離れないのであります。

答弁は、知事が港湾管理者ではない、というところからか、今少し、熱意がほしい、意義の重要性を踏まえてほしい、と思うのであります。

人口約九千七百人、財政規模約百十億円の小さな広尾町が、今日まで、港湾建設費の直轄負担金だけで百十八億円を注ぎ込み、今回の大型埠頭用の埋め立てなど、用地造成費も、九年度十一億円、十年度十五億円に始まり、全体で三十八億円もの町単独の起債事業であります。

一時は、他市町村から出捐金などの協力を得たいと思うことすら、あつた程であります。

その分、住民要望を削つてのことであり、町民合意をギリギリ取り付けながら、歯をくいしばつて頑張つてきたのであります。

港湾の果たす使命は、十勝港の役割は、一人、広尾町のためだけのものでありましようか、この思いを受け止めていただきたいのであります。

十勝港が開港になれば、他府県の港で通関する手間も経費も省ける、大型飼料船が入つてくれば、とん税・とん譲与税も大きい、岸壁使用料も大きい、かなわなければ、間違ひなく十勝港は、広尾町は、倒れるのであります。

公共事業に対する逆風の中で、明らかに投資効果があるということが大事なことであります。食品関係、飼料・肥料、農業

機械、その他、農業及び建設資材を始め、十勝港の開港を待つ取引相手国は、北米・ヨーロッパ・アジア・中国・中東・オセアニアと幅の広いものであります。

本道産業・経済を底上げしていく上で、大きな役割を果たすものであります。

「港湾管理者が誰か」ということより、十勝や東北海道の農業や流通が本道の中で、どのような位置にあるのか、本質でも申し上げたように、大型岸壁が少ない本道にあつて、物流の新たな拠点として、その一翼を担うものであることなど、何一つ触れることなく、一体どのように認識されての答弁か、見えないのであります。

知事におかれましては、平成九年度内に開港の目的が立つよう、そのためには、この春の国の平成十年度予算概算要求取りまとめまでに目途が立つよう、その取り組みについて、再度、所信を伺いたいと思つたのであります。

【再答弁】
一、重要港湾十勝港の開港について
十勝港は開港にふさわしい実績を有しており、また、道東圏の物流拠点として将来の発展が期待されており、一刻も早い開港が望まれているところです。

道としましては、質問の主旨を踏まえ、平成十年度予算の要求に向けて、地元と充分連携を取りながら、函館税関や大蔵省などに強く要望していきたいと考えています。

【質問】—骨子—
二、農業問題について

(一)平成九年度保証乳価について
「平成九年度加工原料乳の保証価格並びに畜産物価格について」であります。国は「飼料は米国の飼料用穀物の豊作により下がっている、平成八年度保証価格算定には八年六月期まで更に七月期以降も飼料は上たつたことを織り込んだ、戸当たり七十五円七十五銭のうち、二円九十三銭は単年度措置だから、それを引いてのスタート」と言っています。

更に、二円の酪農経営活性化特別対策もあり、加えて生産者団体と大手乳業メーカーとの飲用乳取引価格の三・四円引き下げは、加工原料乳保証価格が据え置かれていたことへの府県からの反発も予想されており、保証乳価を巡る情勢は、極めて厳しい状況にあると言わざるを得ません。道の現状認識と保証乳価決定に向けた決意について伺いたい。

(二)担い手支援対策について
新規就農対策も極めて重要施策でありますが、後継者対策は先送りというのでは、既存の農業者や後継者の士気に関わらないと思つていますが、このことについてどのように考えますか。

もう一回、調査検討するといふのであれば、両方検討すればいい、農業振興条例の金融対策の柱であるとするなら、原点到返つて他の方法の検討を含め、多方面からの再検討をすべきと考えますが、所見を伺いたい。

【答弁】
二、農業問題について
(一)平成九年度保証乳価について—省略—

(二)担い手支援対策について
本道農業の発展を図るためには、担い手を安定的に確保していくことが極めて重要でありますので、明年度から、新規就農に伴う借入金利息の負担軽減と担保不足などを補完する対策とともに、農業後継者が借り入れた就農支援資金の償還免除措置を新たに実施することとしております。

また、今後とも担い手の主体となる農家子弟が、意欲を持つて経営を引き継ぐことができるよう、新たな経営づくりのための、金融面を中心とした支援策を講ずる必要があるものと考えておりますので、より効果的な制度とするため、後継者の意向や経営実態などを調査するほか、農業以外も含めた地域関係者の意見なども参考にして、関係機関や団体とともに、その内容について検討を行つてまいりたいと考えております。

(三)保健環境問題について
(一)地域医療体制の充実等について
道内各市町村が昨年六月にまとめた「過疎地域に於ける医療確保の課題と対策」の中で、医師確保のために、町村勤務医の給与水準は都市部に比べ大幅に高い、看護婦など医療技術者も不足しており、給与面での優遇措置などがとられるため、町村立病院の医療収入に対する人権費比率は、平成六年度全病院平均で六十一%と、健全経営のガイドラ



とは、重要な課題であると考えております。
しかしながら、特に道内の町村立病院にあつては、医学に関する研修の機会が少ないことや医師の勤務負担が大きいことなどから、給与を高くしなければ医師の確保が困難であるという地域事情も抱えております。

このため、北海道地域医療振興財団が実施するドクターセンター運営モデル事業やプライマリ・ケア医養成派遣事業においては、医師の研修の機会を確保するとともに、財団が医師の給与の標準を作成し、医師の給与が派遣先の町村の過度の負担とならないように個別に協議をすすめることとしております。

道といえましては、今後とも、このような地域医療を担う医師の確保に向けた取り組みを充実するとともに、地域事情も考慮しながら、医師給与などの面も含め、市町村立病院の経営の健全化を図られるよう努めてまいりたいと考えております。

(二)廃棄物問題について—省略—

【再質問】
三、保健環境問題について
(一)地域医療体制の充実等について

道内各市町村が昨年六月にまとめた「過疎地域に於ける医療確保の課題と対策」の中で、医師確保のために、町村勤務医の給与水準は都市部に比べ大幅に高い、看護婦など医療技術者も不足しており、給与面での優遇措置などがとられるため、町村立病院の医療収入に対する人権費比率は、平成六年度全病院平均で六十一%と、健全経営のガイドラ

た「過疎地域に於ける医療確保の課題と対策」の中で、医師確保のために、町村勤務医の給与水準は都市部に比べ大幅に高い、看護婦など医療技術者も不足しており、給与面での優遇措置などがとられるため、町村立病院の医療収入に対する人権費比率は、平成六年度全病院平均で六十一%と、健全経営のガイドラ

た「過疎地域に於ける医療確保の課題と対策」の中で、医師確保のために、町村勤務医の給与水準は都市部に比べ大幅に高い、看護婦など医療技術者も不足しており、給与面での優遇措置などがとられるため、町村立病院の医療収入に対する人権費比率は、平成六年度全病院平均で六十一%と、健全経営のガイドラ

またの例が示すところであります。

そもそも、札幌医科大学は道立の大学であり、多額の道費がつけ込まれていることを考えますと、「地域医療に対するその役割は何か」を問い直していいのではないかと思っています。

このため、札幌医大の「機能を高める」ことのひとつとして、自治医科大学の修学資金の貸付による義務年限とは性格を異にするかと思つていますが、札幌医科大学としても、一定期間、地域医療に従事するための新たな仕組みを設けて、医師を地域に派遣する考えはないか、所見を伺いたいと思つております。

更には、無理を承知の医師確保のため、法外とも言ふべき報酬・手当等により、自治体病院会計に大きな負担を強いているのが実情でありましよう。

このような「命と安心」が、高い人件費や手当等によってあがなわれている状況を見ますと、何か、一定の基準のようなものを定めることができないのか、さらに言えば、必要なのではないかと思つていますが、所見を伺いたいと思つております。

(二)廃棄物問題について
廃棄物問題は、廃棄物処理施設の立地問題、環境保全、限られた資源の保全と有効な活用など、深刻な問題を提起しており、現在の使い捨て、資源消費型の社会を、国民全体が廃棄物の減量、再資源化に取り組み循環型社会に再構築することが必要とされています。

国は、平成七年六月に、一般廃棄物の中で容積比約六割と高いウエイトを占める容器包装廃棄物について、「容器包装に係わ

る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」、いわゆる「容器包装リサイクル法」を制定し、道にあつても、それに基づき「北海道分別収集促進計画」が、昨年十二月に示され、分別収集計画を作成した百二十二市町村で、その体制整備を急いでいるところであります。

そこで、ペットボトルなどの圧縮機器の整備、ストックヤードの設置、事業者側の再商品化、リサイクルのための設備など、体制の整備状況をお聞きしておきたいと思つております。また、百二十二市町村以外の町村はどうなるのか、廃棄物量などの点から、周辺市町村との連携、分別収集の効率化を図るなど、今後どのように、全道の市町村をカバーしていくかと思つております。

容器包装リサイクル法は、我が国のゴミ対策の第一歩をするものとして、意義深いものではあります。環境先進国のゴミ政策に照らし、将来のゴミ政策の進べき方向を考える時、奥深いものが感じられるのであります。

ドイツ国内で業務をする包装素材メーカー、包装材料メーカー、流通業者に、使用済みの包装材料を全て引き取り、再利用又は再資源化することを義務付けた一九九一年公布のドイツ連邦政府の「包装廃棄物規制令」、この規制令に基づき、更に厳しい条例を定めているバイエルン州、廃棄物税という税制を行っているデンマーク、ビンが生活の基本となつている北欧では、店にビンに戻すとビン代が返却されるデ

ポジット・フアンド・システム

が定着している。
飲料容器は、輸入品を含め再利用できるビン以外許可されないデンマーク、そして、これらの国々の国民のゴミ問題への意識など、調査、検討し、学ぶべきものは大変大きく、深いものがあると常々感じております。

そこで、これからの廃棄物処理を、総合プランニングといたつてのようによろしく、進めたいのかを探るためにも、ヨーロッパなどのゴミ先進諸国に職員を派遣するなど、社会経済システムを「循環型社会」に再構築していくべき必要の作業として実施すべきと考えますが、知事の所見を伺いたいと思つております。

【再質問】
三、保健環境問題について
(一)地域医療体制の充実等について

札幌医科大学は、医学及び保健医療に関する教育や研究のために設置され、道立の医科大学として地域医療に貢献し、地域住民の福祉に寄与することも大きな使命であると認識しております。

このため、札幌医科大学では地域医療支援のための新たなシステムづくりを進めることにしており、今後は地域医療確保対策と一体となつたプライマリ・ケア医の養成と地域への医師派遣を積極的に進めるとともに、全道的な地域医療従事者に対する診療支援及び教育・研究情報のネットワーク化に向けて、現在個別に構築されている地方病院の画像転送システムと接続するなど、そのシステムを充分機能させ、ご提言の地域医療との連携強化に努めてまいりたいと考えております。

このため、札幌医科大学では地域医療支援のための新たなシステムづくりを進めることにしており、今後は地域医療確保対策と一体となつたプライマリ・ケア医の養成と地域への医師派遣を積極的に進めるとともに、全道的な地域医療従事者に対する診療支援及び教育・研究情報のネットワーク化に向けて、現在個別に構築されている地方病院の画像転送システムと接続するなど、そのシステムを充分機能させ、ご提言の地域医療との連携強化に努めてまいりたいと考えております。



平成九年
第二回定例道議会
一般質問
平成九年七月一日

「質問」―骨子―
一、防災対策について
(一)北海道地域防災計画の見直しについて
今月十二日、苫小牧西港東外防波堤灯台から三・六km付近で、日本籍船貨物船二隻が衝突し、一隻が沈没し、乗組員一名が死亡、沈没船の油積載量は、ドラム缶で約百五十本分でありました。

事故発生地点から苫小牧市錦岡沿岸まで約十km最大幅七百mの帯の流出油を翌十三日から十四日までに、回収作業並びに漂着油の回収作業を終えたことはすでに周知のことです。
一月二日に島根県隠岐島沖での、ロシア船籍タンカー「ナホトカ号」沈没による重油流出事故、一月二十九日の函館湾でのマレーシア船籍貨物船の重油流出事故につづく今回の事故であります。

本道にとって、将来の重大な警鐘が鳴らされているのであります。
国は、今月三日、特にロシアタンカーの重油流出事故での対応の遅れを教訓に、これまで、大地震など自然災害に焦点を当ててきた防災基本計画に、今回、

海上事故での油流出や原子力災害・林野火災など大規模な八つの事故災害を追加したところであるが、道の防災計画に、これができるように受け止め、整理反映させようとしているのか、知事の所見を伺います。
(二)防除資機材の保有状況等について
本道におけるオイルフェンス、油吸着剤・油処理剤等の防災資機材等の保有状況、油回収船等の配備状況はどうか、そしてそれは充分なものか、そしてそれは充分なものか、併せて、知事の所見を伺います。

(三)防除資機材の把握等について
国をはじめ全国道府県等の貸出可能な防災資機材等の国による把握は必要であり、今改訂防災基本計画にうたわれていると思うが、どうなっているのか、また、有事の際におけるその連携体制の整備はどうか、併せてお聞かせ願いたい。
(四)防災ボランティア活動について
ナホトカ号の油流出事故では、漂着重油回収作業でヒシヤク、ヘラ、バケツ等で多くのボランティアが協力されたが、食事、宿泊、資材等はほとんど自弁であり、死者も出たところである。

これについての反省と今後の課題をどのように整理されているのか、知事の見解を伺う。
(五)防災体制の充実に
国も地方も防災計画は、「関係省庁もしくは関係部局の所用の長からなる何々本部を設置し」という従来の手法の域を出ないだろう。米国では、自然災害や事故災害に即応する、専門の対策官を連邦政府、州政府、市にも常備し、例えば消防の担当でも、警察が先着した場合、災害コーディネーターの判断と指揮のもとに到着するまで警察に応急に対処をさせたり、臨機応変にかつ垣根を越えての指揮をとれるというものであります。
また、阪神・淡路大震災の際、三十万人の食事の対応を、最寄りの陸上自衛隊の炊飯車で、後方支援の補給隊が到着するまで、対応することができると実施部隊はその執行を求めたのに、実施しなかった。
島根では、気象庁での気象衛星で海流を把握し海保、海自、空自、建設省等の連携で船の固定、並びに大型曳航船の手配による被害の特定地点への曳航による被害の抑制を計る事もなかった等、様々な問題が潜んでいる。米国に、その実態を視察させ、検討させたらいかがか、そして、「安心ランド北海道」の災害版の新機軸を掘知事のもとで、打ち出したら如何かお助めを致したいと思うが、知事の所見を伺います。
(六)防災ボランティアの取り組みについて
今、道東において、特殊技能を有する自衛隊OBによる災害ボランティアの組織化がOB自らによって提唱されています。

これらを含め、民間の国の内外への人的貢献活動に対する支援、情報の相互提供、ネットワーク化、一元化された窓口の設置、技能を含む要員の登録等、できれば全国、まずは北海道としての取り組みを検討すべきと思うが、知事の考えを伺います。
〔答弁〕
一、防災対策について
―省略―

〔質問〕―骨子―
二、第三次北海道長期総合計画基本計画案について
(一)環境について
1 環境に配慮した社会づくりについて
環境に配慮した社会づくりの主要事業として資源リサイクルシステム・リサイクル社会の構築や公害防止の諸対策等が、挙げられている。この他に、減量化及び特種可能な社会の構築のため、一般廃棄物の中の六割を占める容器包装について、再利用・再資源化・自然回帰不能なもの、またダイオキシシン等、重大な影響を及ぼすもの等については使わない、域外・海外からも持ち込まない、というような道としての取り組みを盛り込むべきであり、「クリーンランド北海道」を高らかにうたい上げるべきだと考えるが、所見を伺います。
2 フロン回収について
フロンガスの回収率は全国に比較し、立ち遅れていると聞くが、現状はどうか、というのか、また地球の視野に立つた環境保全の推進を、部門編環境施策の四つの展開方向の一つとして大きく頂立てている以上は、実施

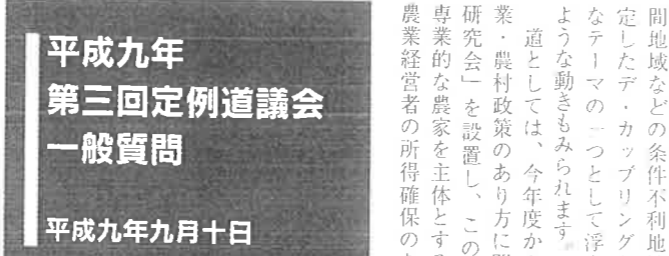
計画の中で、フロンガス回収の行動計画を明確に策定し、早期回収の実現を期すべきと考えるが、所見を伺います。
3 すぐれた自然地域の保全について
自然と人の共生の確保の三つの目標の一つ、すぐれた自然環境の保全の中に、「本道のすぐれた自然地域の保全を図る」という表現に、全体が整理されており、特に、すぐれた自然そのものを「保護」し次代に引き継いでいく観点はどこを探しても無いので、少し気になる点であるので、知事の所見を伺います。
(二)水産業について
基本計画案門編「水産業の展開」の五つの目標の中の「水産資源の持続的な利用体制の確立」の中に、魚族生息地の保全及び水産資源の涵養のため、漁場利用の再編という観点を入れていただき、また、主な施策に盛り込んだ上で、実施計画で具体的な方向、取組を示していただきたいと思うが、所見を伺います。
〔答弁〕
二、第三次北海道長期総合計画基本計画案について
―省略―

〔質問〕―骨子―
三、農業問題について
(一)新規就農者の研修について
新規参入者の担い手として育成するに当たって、現行の道の施策は実習の助成や就農資金の支援であるが、営業技術などを習得するための研修は個人農家や市町村段階の地域担い手センターが行っているものの、地域センターで育てた人材はその地域以外にも就職しています。
知事はこの現状をどう認識されているのか。
また、道の担い手対策はソフトばかりでなく、研修施設そのものも担う必要があると考えるが所見を伺います。
(二)「デ・カップリング」政策について
我が国のデ・カップリングが、中山間型だけの検討方向だとするならば、全くの片手落ちであり、平場の專業農家、大規模農家はどうか、というのか、そういう国の議論を許してはならない。知事の所見と今後の対応について伺います。
〔答弁〕
三、農業問題について
(一)新規就農者の研修について
―省略―
(二)「デ・カップリング」政策について
本道農業は、規模の大きい専門的な経営を展開し、我が国の食料供給基地としての役割を担うとともに、地域経済を支える基幹産業として発展してきましたが、その要因としては、技術開発や農業者の経営努力と相まって、国の制度、とりわけ、価格支持制度によるところが大きいものと考えております。
しかしながら、今日のWTO体制の下では、農産物の価格支持の削減がもたられており、これまでの価格支持に代わる対策を望む動きが強まってきました。
国においては、今年四月に「食料・農業・農村基本問題調査会」を設置し、新たな農業基本法の制定に向けた検討を進めておりますが、その中では、中山

の民間企業や団体は、困惑しているとの声が聞かれる。
少なくとも、行政が政策として推し進めるならば、共通の土台づくり、枠組みづくりの整備等にも焦点を当て、取り組むべきと考えるが、現状と所見を伺います。
3 経済協力プログラムの考え方について
経済協力プログラムでは、概ね五年で実施可能であることと見込まれる具体的な交流内容について、プログラム化しているが、プログラム化するにあたっての基本的考え方について伺います。
4 サハリン大陸棚石油・天然ガス開発プロジェクトについて
サハリン大陸棚石油・天然ガス開発プロジェクトが、プログラムに盛り込まれているが、国と道との関係はどのようになっているのか。サハリン州の権限についても、どの程度国内的に及ぶと判断しているのか。それぞれ伺います。
5 ユジノサハリンスク事務所について
ユジノサハリンスク事務所を設置したことによって、本道にとり、どれだけ成果を上げたかと認識されているのか。また、当初の目的を、充分果たしているのか伺う。
更に、サハリン事務所の人員の拡充を考えているようであるが、その理由、時期と人的拡充の内容について、それぞれ伺う。
〔答弁〕
三、国際交流について
―省略―

〔質問〕
四、環境問題について
〔質問〕―骨子―
二、環境政策推進会議について
去る七月三十日に設置された「環境政策推進会議」について、今回設置したそれぞれの部会においては、今後どのような環境課題について検討し、施策を推進する考えか伺います。
(一)「ダイオキシシン対策」について
新設焼却炉のコストについて
新設の焼却炉は全連続焼却で、隣接の複数の市町村が連携を図ることであり、建設コスト、ランニングコストが、市町村に恒久的のしかかってくるが、どのように見通されているのか、伺います。
2 ごみの収集量について
十万人以上の市を除く市町村において、一日百トン以上のごみが集まるのか懸念されるが、どのように考えておられるのか伺います。
(二)「ダイオキシシン対策」について
新設の焼却炉は全連続焼却で、隣接の複数の市町村が連携を図ることであり、建設コスト、ランニングコストが、市町村に恒久的のしかかってくるが、どのように見通されているのか、伺います。
2 ごみの収集量について
十万人以上の市を除く市町村において、一日百トン以上のごみが集まるのか懸念されるが、どのように考えておられるのか伺います。

〔質問〕―骨子―
一、道政上の課題について
道の関与団体百九十一団体の中から、見直しを要する関与団体、三十一団体が指定されているわけですが見直しの指定後、どうなっているか。
また、既に作業中の酪農関係団体の組織統合は、効率化により、会員の負担軽減に資することの他、半群検定・血統登録率の向上にもつながり、そのことは日本のホルスタイン改良が既に持っている実力と地位を担保し、米国、EJに次いで、外にうって出ることに資するものであります。



地方を論議することにしておりますが、その成果などを踏まえ、必要な施策がこれからの国の農政に的確に反映されるよう、関係機関・団体と一体となって国に強く要請したいと考えております。
〔質問〕―骨子―
二、北方領土問題について
(一)日本人観光客がロシアの査証(ビザ)を取得しての北方領土への入域問題について
平成元年の開議了解には、法的拘束力がないと言え、ビザを取得しての入域は、ロシアの領土と認めたもの、ロシア側に主張されることでもあり、日本の立場を著しく害するものである。いかに有効な手だてはないとはいえず、放置すべき事柄でないと考えるが、知事の所見と併せて国の調査結果について伺いたい。
(二)北方四島での経済活動について
択捉島の完成間近のさけ・ます加工場に米国製の魚体処理ライン、ドイツ製の冷蔵庫やそれを圧倒するように立ち並ぶ国籍もメーカー名も表示されていない四基の大型冷蔵庫を得意げに「これは日本製だ」と教えてくれた工場責任者もいた。このような実態を見るとき、北方四島での経済活動が実質的に行われていると受け止めざるを得ない。
このことについて、知事は全国の関係企業等に経済活動と思われる行為は慎重をききであると思えることも必要かもしれない。何か手だてがないか所見を伺いたい。
(三)サハリン州知事との共同声明について
九月二日ユジノサハリンスク市において開催されたサハリン州知事との会谈結果に関する共同声明の中で、北方領土四島での経済開発の可能性についての研究に着手する用意があることを

〔質問〕―骨子―
二、北方領土問題について
―省略―
〔質問〕―骨子―
三、国際交流について
(一)ロシア連邦極東地域との経済交流について
1 経済協力プログラムの成果について
平成四年締結された「北海道とロシア連邦極東地域との経済協力プログラム」については、いかなる評価をしているのか、更に、このプログラムでは、どのような成果を上げたかと判断しているのか伺います。
2 経済交流の現状と所見について
現状は、合弁会社を設立しても、経営権をめぐる、トラブルなどが発生しており、貿易においても約東が守られていないなど、絶えずリスクがつきまといているのが実情である。
現地の実情について、商習慣や法体系などの違いなど、基本的な問題に加え、不安定な経済社会情勢等もあいまって、道内

〔質問〕―骨子―
三、国際交流について
―省略―
〔質問〕
四、環境問題について
〔質問〕―骨子―
二、環境政策推進会議について
去る七月三十日に設置された「環境政策推進会議」について、今回設置したそれぞれの部会においては、今後どのような環境課題について検討し、施策を推進する考えか伺います。
(一)「ダイオキシシン対策」について
新設焼却炉のコストについて
新設の焼却炉は全連続焼却で、隣接の複数の市町村が連携を図ることであり、建設コスト、ランニングコストが、市町村に恒久的のしかかってくるが、どのように見通されているのか、伺います。
2 ごみの収集量について
十万人以上の市を除く市町村において、一日百トン以上のごみが集まるのか懸念されるが、どのように考えておられるのか伺います。

〔質問〕
四、環境問題について
〔質問〕―骨子―
二、環境政策推進会議について
去る七月三十日に設置された「環境政策推進会議」について、今回設置したそれぞれの部会においては、今後どのような環境課題について検討し、施策を推進する考えか伺います。
(一)「ダイオキシシン対策」について
新設焼却炉のコストについて
新設の焼却炉は全連続焼却で、隣接の複数の市町村が連携を図ることであり、建設コスト、ランニングコストが、市町村に恒久的のしかかってくるが、どのように見通されているのか、伺います。
2 ごみの収集量について
十万人以上の市を除く市町村において、一日百トン以上のごみが集まるのか懸念されるが、どのように考えておられるのか伺います。

〔質問〕
四、環境問題について
〔質問〕―骨子―
二、環境政策推進会議について
去る七月三十日に設置された「環境政策推進会議」について、今回設置したそれぞれの部会においては、今後どのような環境課題について検討し、施策を推進する考えか伺います。
(一)「ダイオキシシン対策」について
新設焼却炉のコストについて
新設の焼却炉は全連続焼却で、隣接の複数の市町村が連携を図ることであり、建設コスト、ランニングコストが、市町村に恒久的のしかかってくるが、どのように見通されているのか、伺います。
2 ごみの収集量について
十万人以上の市を除く市町村において、一日百トン以上のごみが集まるのか懸念されるが、どのように考えておられるのか伺います。

〔質問〕―骨子―
二、環境政策推進会議について
去る七月三十日に設置された「環境政策推進会議」について、今回設置したそれぞれの部会においては、今後どのような環境課題について検討し、施策を推進する考えか伺います。
(一)「ダイオキシシン対策」について
新設焼却炉のコストについて
新設の焼却炉は全連続焼却で、隣接の複数の市町村が連携を図ることであり、建設コスト、ランニングコストが、市町村に恒久的のしかかってくるが、どのように見通されているのか、伺います。
2 ごみの収集量について
十万人以上の市を除く市町村において、一日百トン以上のごみが集まるのか懸念されるが、どのように考えておられるのか伺います。

〔質問〕―骨子―
二、環境政策推進会議について
去る七月三十日に設置された「環境政策推進会議」について、今回設置したそれぞれの部会においては、今後どのような環境課題について検討し、施策を推進する考えか伺います。
(一)「ダイオキシシン対策」について
新設焼却炉のコストについて
新設の焼却炉は全連続焼却で、隣接の複数の市町村が連携を図ることであり、建設コスト、ランニングコストが、市町村に恒久的のしかかってくるが、どのように見通されているのか、伺います。
2 ごみの収集量について
十万人以上の市を除く市町村において、一日百トン以上のごみが集まるのか懸念されるが、どのように考えておられるのか伺います。

〔質問〕―骨子―
二、環境政策推進会議について
去る七月三十日に設置された「環境政策推進会議」について、今回設置したそれぞれの部会においては、今後どのような環境課題について検討し、施策を推進する考えか伺います。
(一)「ダイオキシシン対策」について
新設焼却炉のコストについて
新設の焼却炉は全連続焼却で、隣接の複数の市町村が連携を図ることであり、建設コスト、ランニングコストが、市町村に恒久的のしかかってくるが、どのように見通されているのか、伺います。
2 ごみの収集量について
十万人以上の市を除く市町村において、一日百トン以上のごみが集まるのか懸念されるが、どのように考えておられるのか伺います。

〔質問〕―骨子―
二、環境政策推進会議について
去る七月三十日に設置された「環境政策推進会議」について、今回設置したそれぞれの部会においては、今後どのような環境課題について検討し、施策を推進する考えか伺います。
(一)「ダイオキシシン対策」について
新設焼却炉のコストについて
新設の焼却炉は全連続焼却で、隣接の複数の市町村が連携を図ることであり、建設コスト、ランニングコストが、市町村に恒久的のしかかってくるが、どのように見通されているのか、伺います。
2 ごみの収集量について
十万人以上の市を除く市町村において、一日百トン以上のごみが集まるのか懸念されるが、どのように考えておられるのか伺います。

〔質問〕―骨子―
二、環境政策推進会議について
去る七月三十日に設置された「環境政策推進会議」について、今回設置したそれぞれの部会においては、今後どのような環境課題について検討し、施策を推進する考えか伺います。
(一)「ダイオキシシン対策」について
新設焼却炉のコストについて
新設の焼却炉は全連続焼却で、隣接の複数の市町村が連携を図ることであり、建設コスト、ランニングコストが、市町村に恒久的のしかかってくるが、どのように見通されているのか、伺います。
2 ごみの収集量について
十万人以上の市を除く市町村において、一日百トン以上のごみが集まるのか懸念されるが、どのように考えておられるのか伺います。

〔質問〕―骨子―
二、環境政策推進会議について
去る七月三十日に設置された「環境政策推進会議」について、今回設置したそれぞれの部会においては、今後どのような環境課題について検討し、施策を推進する考えか伺います。
(一)「ダイオキシシン対策」について
新設焼却炉のコストについて
新設の焼却炉は全連続焼却で、隣接の複数の市町村が連携を図ることであり、建設コスト、ランニングコストが、市町村に恒久的のしかかってくるが、どのように見通されているのか、伺います。
2 ごみの収集量について
十万人以上の市を除く市町村において、一日百トン以上のごみが集まるのか懸念されるが、どのように考えておられるのか伺います。